

連合兵庫第20回定期大会 会長あいさつ

連合兵庫第20回定期大会にご出席いただきました役員ならびに代議員のみなさんお疲れ様です。連合兵庫の那須です。

暑かった夏もようやく落ち着き先々週ごろから朝夕も過ごしやすく、秋の訪れを待ちわびた方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか？今年の夏は、梅雨明けが早く、7月～9月の平均気温が過去最高を記録したことが報じられているように、確実に気候変動が私たちの職場、生活に影響を及ぼしています。

とりわけ安全・衛生面については、深刻な問題です。おそらく来年以降も「過去最高温度を記録した」とか「過去に経験のない豪雨を記録した」といったフレーズを聞くと思います。

私たちの働く職場は、安全なくして生活の安心はありません。そのために労働組合の存在があります。改めて、連合兵庫に集う全ての仲間の安全を祈り、本日の定期大会に臨みたいと思います。

昨年の地方委員会で前福永会長からバトンを引き継ぎはや、1年が経過しました。この1年、様々な出来事がありましたが、詳細は、この後の経過報告で触れますが、みなさんの協力によりまして、何とか会長の任を務めることができました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

さて、本日の大会では、連合兵庫第19期の総括を行い第20期に向けて2年間の運動方針ならびに2026年度予算(案)について審議いただく予定です。

第19期の取り組み4点について、振り返りつつ所感を簡潔に述べたいと思います。

1点目は、中央会費制度移行に伴う持続的な連合兵庫の運動についてです。

来年1月から中央会費制度に移行されることに伴い、連合兵庫の財源は、中央交付金のみとなります。中央会費制度への移行では、財政規模の小さな地方連合会を全体で支えるしくみが導入され、連合兵庫を含む、財政規模の大きい地方連合会から一定割合の額を補填することとなり、第2号議案で提案しますが、約700万円の減収とまります。

一方で、連合兵庫の財政支出では、今後、職員の新規採用や定年延長に加えて、派遣役員の還元金のあり方と役員確保の問題、さらに、連合兵庫における次代を担う人材確保を目的とした、人材育成プログラムの策定、連合兵庫のスケールメリットを活かしたイベントのあり方等々、多額の財政支出は避けて通れない課題であり、昨年12月に三役会議構成員と地域協議会代表者をメンバーとする「連合兵庫組

組織・財政検討委員会」を設置し、様々な視点から課題整理、対応策、今後の課題などについて検討して参りました。

結果、イベントのあり方を除いて一定の方向性を導き出すことができました。

向こう10年にわたって、連合兵庫の財政の安定化と役員ならびに事務職員の確保を含め、2023年の「組織財政検討委員会」の検討結果を補完するものとして、第20期以降の方針に反映して参ります。

2点目は、組織拡大ならびにジェンダー平等のさらなる推進についてです。

両課題は、連合ならびに連合兵庫において最重点課題と位置づけています。

この二つの課題は、毎年、連合兵庫各構成組織と意見交換を繰り返しながら、1歩でも前進させるために、構成組織の実情を踏まえながら取り組んできましたが、組織拡大ならびに、ジェンダー平等推進計画については、目標に達することができず、まだまだ道半ばと言わざるを得ません。

組合のない企業では、賃上げ実績が約1%低い実態にあり、安全・衛生においても8月末時点の兵庫労働局管内で発生した死亡災害は14件と高止まりし、多くの重篤災害が発生していますが、その多くが労働組合の無い職場で発生しています。

組織拡大は働く仲間の生活の安心、安全と健康そして命を守ることに直結します。また、ジェンダー平等についても男女間の賃金格差の是正やハラスメントへの対応など、人手不足が深刻化している今こそ、女性が生き活きと活躍できる職場環境を構築するためには、女性目線の運動が不可欠です。

第20期では、組織拡大委員会ならびにジェンダー平等推進委員会を三役対象会議として会長含めた、三役構成メンバーで取り組むこととし、確実に成果を上げられるよう体制を強化して参ります。

3点目は、政治についてです。

7月に施行された第27回参議院議員選挙については、昨年年第50回衆議院議員選挙と同様に、「与党を過半数割れに追い込み政治をリセット」という目標を掲げ取り組んだ結果、衆・参両院で与党を過半数割れに追い込むことはできました。

しかし、連合が支援政党と位置付ける立憲民主党と国民民主党との溝は一層深まってしまった点では、極めて残念と言わざるを得ません。

連合ならびに連合兵庫において、働く者・生活者・納税者の立場に立った政策を実現するために、互いが連携し、できれば大きな塊となることを切望していただけに忸怩たる思いです。国政では、どの政党も過半数を持たない多党化時代を迎え、不安定化がましています。「何も決まらない。何も決められない。」政治だけは何があっても阻止しなければなりません。

国民の最大の望みは、物価高騰対策や米国関税措置いわゆるトランプ関税によって、大きな影響を受ける日本経済の立て直しであり、常に政局がまとわりつく不安定な政治情勢は望んでいません。

自民・維新の連立に政権が誕生しましたが、それとて過半数に届きません。

連合兵庫は、次期、衆議院選挙に向けて、今年の衆議院選挙で立憲・国民民主党県連と締結した合意書を基本に選挙区調整ならびに選挙協力で互いの信頼関係を構築し、支援する議員を一人でも多く国政に送り届け、安定した政権が築けるよう政治活動に全力で取り組んで参ります。この点、皆さんと今日痛いと思います。

4点目は、組織の団結を強め力量の強化に向けてです。

現在、7月の参議院選挙結果を踏まえて、政治意識アンケートを実施していますが、今回の選挙で、組合員の投票行動や組合役員との関りなど、これまでの定点調査の分析を行なうこととしています。

課題は、今回の選挙結果を見ても明らかなように、比例組織内各候補者名の得票数が、全ての産別で前回2022年の第26回参議院選挙より、大幅に減らしていることに危機感を感じざるを得ません。

各候補出身産別をはじめ、支援組織との連携、組合員への周知など、相当な危機感を持って取り組まれたものと考えますが、結果はご案内の通りです。

連合本部の第27回参議院議員選挙総括でも謳われているように組織連携をはじめ、組合と組合員、組合役員と組合員との連携の希薄化が懸念されていると分析されています。

それによると組合員の意識が多様化する中で、有権者はLINEやYouTubeなどによって、自分の必要な情報のみを信用し投票行動に移るとあります。各組織が、組合員に組織の思いをどこまで伝えられているかが問われています。

改めて、組織の思いや考え、方針を浸透させ組合員の参加と協力を得るためには、政治活動に限らず、運動の基軸は組合員との信頼を構築し、その期待に応えることです。「①組合員との対話、②職場や企業における課題の洗い出し、③取り組み方針の策定、④労使間対応、議会への働きかけ、⑤取り組み経過と結果の組合員へのフィードバック」このサイクルを絶えず回し続けることです。とりわけ、組合役員は聞き耳をたて常に職場の声を聞くことが、組合員との信頼関係の構築につながります。

大会スローガンの「安心社会へ果敢にアクション!～広げよう「理解・共感・参加」の輪～」に込めた思いは、改めて労働運動の根幹である職場組合員との信頼の構築を運動の土台に据えていくことです。

連合兵庫と共に組織力強化に向けて日常活動を徹底し、政治活動をはじめ様々な活動への理解・共感・参加が得られるものへと進めて参りましょう。

まずは大会後、速やかに三役構成組織との意思確認を行い実践いただくとともに、執行委員構成組織とも共有したいと思います。

その他、2026～2027年度運動方針では、「2026春季生活闘争の取り組み」や「政治情勢を踏まえた次期衆議院議員選挙への対応や政治をより身近に感じてもらえる取り組み」、「政策制度要請」、「次代の連合運動を担う人材育成方策とした連合兵庫アカデミーの創設」など、果敢に挑戦して参ります。代議員の皆さんには是非、建設的な補強をお願いします。

結びに、連合兵庫 第20期が本日スタートします。皆さんの理解・共感・参加のもと、連合兵庫全組織が一致団結して、運動の推進と実践するための確認との場となることをお願いし、あいさつとします。共に頑張ってください。

以上